

男子決勝戦評

チーム名		2		10		チーム名
牛久	25	9	VS	0	37	下妻J
		4		13		
		10		14		
1Q	<p>準決勝まで危なげなく勝ち上がってきた両チームの対戦。お互いに長身選手を配置し、インサイドの攻防が興味。スタート直後は硬さからか、両チームともなかなかゴールを決められない重い展開に。</p> <p>青⑨の左右からのスピード感あるドライブと、青⑧の体格を生かしたターンアラウンドで徐々に序盤のペースをつかむ。</p> <p>白も⑥の三人抜きのドリブルインでレイアップを決めて反撃。</p> <p>白⑤が右足を痛めるアクシデントもあり、思うようなプレイができず、青の優勢でこのピリオドを終了。</p>					
2Q	<p>白の反撃開始。</p> <p>白は⑦⑬を中心に、ペリメーターからのジャンプシュート、鋭いドリブルからのレイアップ、フリースローも確実に決め逆転に成功。</p> <p>一方青チームは、白の激しいディフェンスからファールが増え、青にフリースローのチャンスがあったが決めきれず、このピリオド痛恨の得点0に終わる。</p> <p>白1点のリードで前半を折り返すも、ロースコアゲームの様相。</p>					
3Q	<p>後半最初のスローインで相手の油断をつく頭脳プレーで白が後半の先取点を獲得。</p> <p>青は④⑨のガード陣のドリブル突破からそのままシュート、ヘルプが来れば長身の⑧に合わせ、と多彩な攻撃を繰り返して、再逆転しリードを広げていく。</p> <p>体格でやや劣る白はロングシュートを多投するが、決まったのは⑦の1本のみ。</p> <p>じわじわと青チームのペースに。</p>					
4Q	<p>どうにか流れを変えたい白チームは、3Qとメンバーを入れ替え反撃を試みる。リバウンド力で優位の青に対し、ミドルシュートを確実に決め追いつこうと必死。青⑧も体格に見合わない柔軟さを見せ、ゴール下でバックシュートを決め、会場を盛り上げる。</p> <p>白は交代のカードを切り④⑥をコートへ。</p> <p>ディフェンスに苦しめられていた白⑤がインサイドへ切り込み、この試合ようやく初得点。</p> <p>残り時間が少なくなりオールコートで激しくあたる白だったが、ファールが増えてくる。青チームはこれで得たフリースローを確実に沈め点差を保つ。</p> <p>白チームは疲れからかロングシュートの確立も悪くなり、得点が伸びずゲームセット。</p> <p>今大会を通じ終始リバウンドで優位に立っていた下妻Jが優勝を決めた。</p>					